令和７年度　学校評価　中間評価

石川県立錦城特別支援学校

<table>
<tr><th>重点目標</th><th colspan="2">具体的取組</th><th>主担当</th><th>実現状況の達成度判断基準</th><th>質問項目</th><th>中間集計結果</th><th>分析
（成果と課題）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">（1）
授業力と専門性の向上</td><td>①</td><td>＜授業改善＞
「新たな教師の学びの姿」を踏まえ、各自が学校研究を推進し、深い学びへの授業改善を行う。</td><td>研究推進課
全学部</td><td>主体的に研究会や研修会に参加し、深い学びにつながる授業改善について理解を深め、授業力が向上したと感じる職員の割合
Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
３項目の職員アンケート内容に対し、２項目以上に「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上</td><td>【職員アンケート】３項目
ア．授業力向上に向け、研究会では授業改善について意見を伝えることができた。
イ．研究授業及び普段の授業において、各グループのテーマに沿った授業づくりにおける児童生徒の姿を具体的にイメージすることができた。
ウ．研究会を通して学んだことを普段の授業場面で活かすことができた。</td><td>各教員の「できた・ややできた」項目数の割合
a．３項目 b．２項目 c．１項目 d．０項目

達成度の割合（%）
<table><tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr><tr><td>83</td><td>17</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>
【結果】Ａ 「a+b」 100%

各項目の内訳（%）
<table><tr><th></th><th>できた</th><th>ややできた</th><th>あまりできなかった</th><th>できなかった</th></tr><tr><td>ア</td><td>50</td><td>47</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>イ</td><td>63</td><td>37</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>ウ</td><td>43</td><td>47</td><td>10</td><td>0</td></tr></table></td><td>今年度は、全校教員がテーマ別に３つの研究グループを構成し授業研究を行っている。アンケートの結果、２項目以上に「できた」「ややできた」と回答した教員（a+b）の割合は100%で、Ａ評価となった。
「発問や課題提示の仕方が向上した」「協働的、対話的な学びになるよう考えながら授業を構成するようになった」「表出が微細な児童の表出の読み取り方や教材の提示の仕方等について学んだことを日々の授業に活用している」等があげられ、木教員の授業実践力が向上していることが伺える。一方で、学部を超えたグループ構成のため、授業検討の際に普段関わりのない児童生徒の実態把握に対する課題もあげられた。
今後は、各グループの課題を整理しながら、教員一人一人が授業力の向上を実感できるような授業研究をすすめていく。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>＜専門性の向上＞
社会に開かれた教育課程を目指し、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業展開や各教科の指導の充実を図る。</td><td>教務課
全学部</td><td>指導内容表や学習指導要領をもとにして年間指導計画や個別の指導計画を作成し教科指導の充実に努めている教員の割合

Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
職員アンケートの２項目ともに、「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上</td><td>【職員アンケート】２項目

ア．指導内容表や学習指導要領をもとに、各教科の３観点を意識して授業実践している。
イ．個別の指導計画の各教科において、児童生徒の目標達成にむけて、個々の実態に応じた支援、手立てをしている。

※各教科の３観点
【知識及び技能】
【思考力、判断力、表現力】
【学びに向かう力、人間性】</td><td>各教員の「できた・ややできた」の項目数の割合
ア
a．できた 18%
b．ややできた 67%
c．あまりできなかった 12%
d．できなかった 3%
イ
a．できた 30%
b．ややできた 64%
c．あまりできなかった 3%
d．できなかった 3%

各項目の割合（%）
<table><tr><th colspan="2"></th><th colspan="4">ア</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr><tr><td rowspan="4">イ</td><td>a</td><td>12</td><td>12</td><td>6</td><td>0</td></tr><tr><td>b</td><td>6</td><td>55</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>c</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>d</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr></table>
ア、イの２項目ともに「できた」「ややできた」と回答した割合
【結果】　Ａ　85%</td><td>アンケートの結果、２項目以上に「できた」「ややできた」と回答した教員の割合は85%で、Ａ評価となった。
授業で工夫している点については「児童生徒への目標の確認」「思考を促す場面の設定」「発問の工夫」等、多くの工夫点を共有することができた。
一方で、「各教科等を合わせた指導における教科学習の取り組み方」については、教科の内容をどう組み込んでいくか、指導内容の設定が難しいという課題もあげられた。
今後に向けて、指導内容表等について実際の授業に活用しやすい内容になるよう見直しをはかり、整理していく。また、個別の指導計画の作成にあたっては、教科担当者と担任が連携し、情報を共有する機会を設けながら、児童生徒の実態に応じたより適切な目標設定、支援の工夫を考えていくことも必要である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="2">（2）
キャリア教育の推進</td>
<td>①</td>
<td>＜プログラムの活用＞
錦城版キャリア教育プログラム（改訂版）を活用し、家庭と連携し個々のキャリア発達を促す取り組みを実践する。</td>
<td>支援課
各担任</td>
<td>本校のキャリア教育の内容を理解し、家庭でも取り組んでいる保護者の割合
〔今年度取り組む項目【社会で生きる力】（係活動・お手伝い）〕

Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
『めざせ！お手伝いマスター‼』の取り組み週間において、児童生徒が家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組んだ割合が70％以上</td>
<td>【保護者・取組みカード結果】
１項目
ア.『めざせ！お手伝いマスター‼』の取り組み週間において、家庭で行う係やお手伝いを決め、児童生徒が家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組みましたか。</td>
<td>児童生徒が、家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組んだ数の割合

a. 取り組んだ　85%
b. 取り組んでいない　15%

各学部の取り組みの割合(%)
<table><tr><td></td><td>小</td><td>中</td><td>高</td><td>全体</td></tr><tr><td>ア</td><td>89</td><td>88</td><td>79</td><td>85</td></tr></table>
「ア」の内訳(%)
<table><tr><td></td><td>小</td><td>中</td><td>高</td><td>全体</td></tr><tr><td>ｺﾞｰﾙﾄﾞ</td><td>75</td><td>64</td><td>82</td><td>73</td></tr><tr><td>ｼﾙﾊﾞｰ</td><td>19</td><td>36</td><td>9</td><td>21</td></tr><tr><td>ﾌﾞﾛﾝｽﾞ</td><td>13</td><td>0</td><td>9</td><td>6</td></tr></table>
【結果】Ａ　85%</td>
<td>今年度のキャリア教育のテーマは「認められる場面をたくさん作ろう！」とし、個人懇談時に担任から保護者に学校での取り組みを説明し、家庭でできるお手伝いとして具体的な取り組みを一緒に検討した。取り組み期間を設定し、その期間に家庭で取り組んだ家庭は85%となり、Ａ評価となった。
担任と保護者が係の仕事やお手伝いの内容について一緒に考えることで、無理なく取り組むことができ、多くの児童生徒がゴールドの評価に達することができた。
今後も懇談等を通じて家庭と連携して児童生徒が認められる場面を設定し、本校のキャリア教育の内容について保護者に理解を促していく。</td>
</tr>
<tr>
<td>②</td>
<td>＜進路支援の充実＞
センター的機能を発揮し、地域の小中学校や保護者への研修会等を継続し、進路支援や相談の充実を図る。</td>
<td>支援課</td>
<td>進路支援や発達に関する研修会に参加して、内容に満足している研修会参加者の割合

Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
アンケートに「とても満足できた」「概ね満足できた」と回答した参加者の割合が70％以上</td>
<td>【参加者へのアンケート】
１項目
ア. 卒業後の進路を考える研修会で、内容がわかり満足できましたか。</td>
<td>研修会参加者アンケート４段階評価の割合
（有効回答18名/21名）

a. とても満足できた　61%
b. 概ね満足できた　39%
c. あまり満足できなかった　0%
d. 満足できなかった　0%

【結果】Ａ　「a＋b」　100%</td>
<td>７月に実施した『卒業後の進路を考える研修会』に参加し、アンケートを提出した参加者全員がその内容に 「とても満足できた」
「概ね満足できた」と回答し、子どもの進路を考えるための有益な研修会となったことが窺える。
満足した理由については、「色々な制度があると知る事が出来た」、「これからは相談員に小さい事でも相談していこうと思った」、「現場に携わる方からの話が聴けて実際の様子がわかり、よかった」等の意見が寄せられ、参加者にとって子どもの進路を考える上で、福祉サービスの利用や卒業後の就労等に係る様々な制度についての理解が深まったと考えられる。
第２回は、11月に子どもの発達に関する研修会を実施する。参加者のニーズに合った研修会を企画できるよう、さらに検討を重ねていく。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="2">（３）
安心・安全な学校づくり</td>
<td rowspan="2">①</td>
<td rowspan="2">＜安全・防災に関する教育活動の充実＞
危機管理マニュアルの見直しをはかり、防災教育に関する授業や行事等を計画的に行う。</td>
<td>保健課
各担任</td>
<td>災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合。
Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
災害への備えを意識した安全点検10項目のうち、６項目以上意識して取り組んでいる教員の割合が70%以上</td>
<td>【教員アンケート】10項目
以下の災害への備えを意識した環境整備や改善に努めている
①出入り口に避難の妨げになる物がないか確認している。
②防災頭巾を所持するよう声かけをしている。
③高さのある棚に荷物が置いていないか確認している。
④消火器の場所の確認をしている
⑤コンセントにホコリ等が溜まっていないか確認している。
⑥老朽化している所がないか確認している。
⑦担架や車イス等が設置されている場所を把握している。
⑧避難経路の確認を行っている
⑨備蓄品、非常用物資の場所を把握している。
⑩壁や床等に、亀裂がないか確認している。
１０項目中　８個以上…a
６個以上…b
４個以上…c
３個以下…d</td>
<td>災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合

<table>
<tr><th></th><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td>小学部</td><td>46%</td><td>46%</td><td>8%</td><td>0%</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td>50%</td><td>40%</td><td>10%</td><td>0%</td></tr>
<tr><td>高等部</td><td>85%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr>
<tr><td>全　体</td><td>61%</td><td>33%</td><td>6%</td><td>0%</td></tr>
</table>

a. ８個以上　61％
b. ６個以上　33％
c. ４個以上　6％
d. ３個以下　0％

【結果】Ａ　「a＋b」　94％</td>
<td>災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合は、１０項目中６項目以上が94％を超え、Ａ評価となった。外部講師を招いた研修会の実施や避難訓練（火災・地震）や安全点検の見直しで教員の意識が向上したことが理由と考えられる。
一方で、項目②については半数近くの教員が行っていない結果となり学部の児童生徒の実情や食堂や特別教室の状況により指導を行いにくい場面もあることが窺えた。項目⑨については、16名の教員が把握していない結果であったが、アンケート後に実施した「教員防災研修会」において、備蓄品や非常用物資の説明を行い共有をはかったことで、教員の意識も高まったと思われる。
今後に向けて、安全点検の項目をさらに検討し、教員一人一人が災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努められるような工夫を行っていく。</td>
</tr>
<tr>
<td>指導課
各担任</td>
<td>学校での防災学習や災害対策がわかり、授業参観等でその指導内容に満足している保護者の割合
Ａ：80％以上
Ｂ：70％以上
Ｃ：60％以上
Ｄ：60％未満
Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善

達成度判断基準
学校の防災教育や災害対策についてのアンケートで、２項目ともに肯定的な回答をした保護者の割合が70％以上</td>
<td>【保護者アンケート】２項目
＜学校の防災教育＞
ア．学校の防災教育や災害対策について理解していますか

＜防災通信＞
イ．防災通信等を見て、災害時に児童生徒が適切に避難行動等とれる内容だと思いますか。</td>
<td>学校の防災教育や災害対策についての保護者の理解の割合、防災通信についての保護者の満足度の割合

ア．
a. 理解している　24%
b. 概ね理解している　67%
c. あまり理解していない　9%
d. 理解していない　0%
イ．
a. 思う　41%
b. やや思う　45%
c. あまり思わない　14%
d. 思わない　0%

ア、イの２項目ともにa、bと回答した割合
【結果】Ａ　86%</td>
<td>学校の防災教育や災害対策について、保護者の理解度や満足度をはかる２項目のアンケートを実施し、肯定的な意見が全体の86%でＡ評価となり達成基準を上回る結果となった。ホームページに防災学習や避難訓練等の様子をわかりやすくアップしたり、防災通信を発行したりしたことが要因と考えられる。
一方で、保護者の意見の中には「実際に出火した時等、パニックにならないか心配」「防災用のリュックの持ち帰りは最終日まで待った方が安心である」「イレギュラーな事が苦手な生徒のために、防災教室、避難訓練、非常食試食等、頻繁に実施してほしい」等の意見があげられた。
今後は保護者の意見も参考にしながら、避難訓練の課題や反省点を活かして危機管理マニュアルの内容を見直し、災害に備える体制作りを高めていきたい。</td>
</tr>
</table>

（４） 業務の効率化の工夫	①	＜業務の効率化と環境改善＞ 　分掌業務のデジタル化と共有化を推進し、各部・各課がマニュアルやスケジュール等をもとに業務の効率化や平準化を目指す。	教頭 各課 全学部	各部・各課（計10部署）におい効率化や平準化についての具体的な方策を３つ以上考え、協働して業務改善を図った部署の割合。 Ａ：　8/10以上 Ｂ：　7/10以上 Ｃ：　6/10以上 Ｄ：　5/10以下 Ｂ以上　Ｃ・Ｄは工夫改善 達成度判断基準 各部・各課（計10部署）において、効率化や平準化についての具体的な方策を３つ以上考えて取り組んだ部署が７部署以上。	【各部・各課アンケート】 １項目 ア．前期、効率化や平準化について考え取り組んだ具体的な方策の数はいくつですか。	効率化や平準化について考え取り組んだ各部・各課の割合。 a．３つ以上　　6部署 b．２つ　　2部署 c．１つ　　2部署 d．０　　0部署 **【結果】Ｃ　6/10**	10の部署のうち、６部署において３つ以上具体的な方策を考え業務改善に取り組んだとの回答を得られたが、４部署においては１～２つの方策にとどまりＣ評価となった。 　具体的な方策としては、「課会資料のペーパレス化・事前のTeamsアプリでの共有」、「業務内容の見える化」、「資料作成における生成AIの活用」等があげられた。担任によるGoogle Classroomの活用も浸透してきており業務のICT化が進んできいている。 　今後に向けて、他の好事例も示しながら、具体的な方策についてさらに検討するとともに、教員一人一人が具体的な方策を常に意識できるように、各部署で取り組んでいる実践を定期的に点検する機会を設け、実際に業務が軽減されたのかについて検証する必要がある。